

教育長行政報告

建物の内外装の整備を行うとともに、ファンサービスのための各種機能の充実を図るものであります。

取得用地は面積4305・37平方メートル、建物は同敷地内にある鉄骨造平屋建606・7平方メートルを、土地建物合わせて1億2000万円で購入しております。

建物の改修、整備に2500万円を投じ、収容人数200名、客席数は132席、来場者サービス設備として、場内モニター32台、自動発売機6台と、自動発売払戻機2台を備え、売店も設置し、駐車場は150台分を確保しております。



▲リニューアルオープンした「aiba静内」

ファンサービスとしては、例年行っているホツカイドウ競馬売上応援イベントaiba祭を、日高中部

二つ目は、インフルエンザの状況であります。認定こども園ド・レ・ミでは、1月23日頃からインフルエンザによる欠席者が急速に増え、2月1日には22名の欠席者となりましたが、徐々に減少し2月12日には終息しております。

小・中学校では、1〜2名の欠席はありましたが、感染が拡大することなく、学級閉鎖等の影響はありませんでした。

三つ目は、体罰に係る実態調査についてです。

昨年末、部活動中の体罰が背景にあると考えられる高校生の自殺を受け、文部科学省では、全国の小中学校を対象に体罰の状況について、2月と3月の2回に分けた実態調査が実施されております。

2月に実施した調査では、学校における体罰の事案は無かったと報告を受けておりますが、現在、集約している第2次調査は、教職員のほか、児童生徒、保護者を対象とした調査となっており、この中で体罰に該当するか若しくは体罰が疑われる事案があった場合、さらに詳細に調査することとなっております。

いずれにしても、体罰は、児童生徒の人権や人格を侵害する行為であるとともにも学校教育法において

2町と日高軽種馬農協を含む4農協及び各町軽種馬生産振興会が、これまで同様連携し行うことで準備を進めております。

また、このリニューアルに伴い、廃止となるウインズ静内で取り扱っております日本中央競馬会の勝ち馬投票券も、aiba静内施設内に「J・P・L・A・C・E（ジェイプレイス）」という新しい窓口ができ、3月23日より全レースを取り扱えることとなっております。

これによりホツカイドウ競馬は勿論のこと、南関東をはじめとする地方競馬と、中央競馬の勝ち馬投票券の発売ができ、利用者の利便性が高まって売上向上につながるものと期待しているところであります。

平成25年度のホツカイドウ競馬の開催予定でございますが、4月24日に開幕し、11月14日までの80日間の開催で予定されております。

重賞8レースを含むJRA認定レースは118レース、さらに牝馬資源活性化のため牝馬限定重賞レースの新設、秋以降の未勝利競馬の1着賞金の増額など、レースプログラムの充実も積極的に図られ、全日程を門別競馬場のグランシャリオナイターとして開催することです。

四つ目は、新冠小学校におけるいじめの状況ですが、昨年10月に発覚したいじめに対しては、校内サポート会議や、授業を複数で指導するT体制をとるなど、問題行動の抑止のため学校全体で、いじめの解消に継続的に取り組んできたところではあります。現時点では大きな事案には発展しておりませんが、完全に収束したとは言えない状況にあり、引き続き、継続した指導を行っているところであります。

《信頼される学校づくり》
新冠小学校では開かれた学校づくりの一環として、昨年に引き続き、2月22日、「1日音楽の日」を実施しました。

レ・コード館を会場に昭和音楽大学のアウトリーチコンサートや1年生による合唱の発表など、レ・コード&音楽による町づくりの特色を生かした体験学習を行い、保護者や地域の方々の出席も見られ、開かれた学校づくりの取組となりました。

学校教育の推進

《教育委員の活動》

今年度2回目の学校訪問を2月12日・13日の二日間で、授業参観や施設を視察したほか、学校・園の経営の推進状況について懇談し理解を深めるとともに、今後の取組について指導・助言をしてまいりました。

《進路希望状況・学級編制》

新冠中学校卒業生進路希望状況と平成25年度学級編制につきまして、概要について申し上げます。

まず、進路希望状況ですが、進学希望者は47名で就職希望者が1名となっております。

進学希望先は、静内高等学校27名、道外公立高・私立高各1名、道内公立校6校へ17名、私立高へ1名の希望で、3月1日現在、7名の合格が内定しております。

なお、3月5日・6日に公立高校の学力検査が行われ、合格発表は3月18日の予定となっております。

次に学級編制についてですが、学級数では、新冠小学校の第1学年が2学級となり、また特別支援学級に

《学校経営の充実》

老朽化により改修が必要となつてくる新冠中学校の暖房用ボイラーの改修についてであります。当初、平成26年度に文部科学省所管の学校環境改善交付金事業により改修すべく、北海道教育委員会と協議を進めておりましたが、この度、国の平成24年度補正予算により前倒ししての実施が可能となりましたので、実施設計委託に係る補正予算を2月28日付け専決処分し、3月7日、指名競争入札を予定しているところであります。

今後、本年度中に設計を終え、改修事業費を平成24年度補正予算に計上し、平成25年度中に事業を完了する予定としております。

認定こども園ド・レ・ミの教育・保育

開設から2年を経過する認定こども園ド・レ・ミでは、家庭・地域と一体となって開かれた園づくりを目指し取り組んでおります。2月12日から15日までの4日間をフリー参観日として、保護者はもとより、地域の方々にも来園いただき、5日間で、保護者164名、一般23名の来園がありました。

また、この期間中、相談窓口を開

において新たに言語学級が開設され、合わせて2学級の増となり、教員数も2名の増となる見込みです。

新冠中学校は、学級数は変わりませんが、特別支援学級の生徒増により教員数が1名増となる見込みです。児童数は、小学校全体で321名となり前年度より19名の増、中学校の生徒数は145名で1名の増となります。

《豊かな心身の育成》

スケートリンクについて、今年も朝日小学校に開設し、体育の授業として17日間、952名の利用がありました。さらに1月下旬から土曜日の5日間の開放を行い、253名の利用がありました。



▲朝日小学校1年生の初スケート授業

設し、希望される保護者27名との面談を行い、園の様子や家庭での過ごし方などについて情報交換し、互いの共通理解が図られるよい機会となりました。



▲認定こども園ド・レ・ミフリー参観日

また、幼小連携の取組については、2月7日に新冠小学校1、2年生の生活科授業の一環として実施された幼小連携事業、「わくわく祭り」に年長児52名が参加し、4月からの就学に向け、良い交流の場となりました。今年度、148名でスタートしたド・レ・ミですが、現在、165名の入園児を数え、今後も数名の入園希望がありますことから、定員を超える入園児となりますが、現体制の中で、教育・保育活動に支障が無いと